

ナンバリング	授業科目名 (科目の英文名)	区分
AM14Z001	倫理学 (Ethics)	基礎教育科目 社会・経済

必修選択	単位	対象年次	学期	曜・限	担当教員
必修	2	1	前	月・2	今井浩光 (医) 内線：5600 E-mail：imaih@oita-u.ac.jp

【授業の概要・到達目標】

医療における倫理を学ぶ基礎として、倫理の概念、倫理学の歴史と代表的な倫理理論の考え方を学習する。それを元に、社会における医療の意味、医療に求められる倫理、望ましい医療者患者関係などについても、学びを深める。

具体的な到達目標	看護学科ディプロマポリシーとの対応						
	1	2	3	4	5	6	7
1. 倫理学の歴史と代表的な倫理理論を説明できる				○			
2. 医の倫理、看護倫理の基礎を説明できる				○			○
3. 社会の中で医療、医療者が果たすべき役割を考察し、自らの考えを述べるができる		○		○	○		○

【授業の内容】

1. 倫理学の導入、倫理的判断とは	9. 患者の権利
2. 倫理理論① (徳の倫理)	10. プロフェッショナリズムと医療者の責務
3. 倫理理論② (帰結主義)	11. 医療者患者関係とインフォームドコンセント
4. 倫理理論③ (義務論)	12. ケアの倫理
5. 動画視聴と考察	13. 医学研究の倫理
6. 権利について	14. 社会の中の生命倫理
7. 法と道徳と倫理	15. まとめ
8. 医の倫理の歴史	

【アクティブラーニングの内容・その他の工夫】

A : 知識の定着・確認		倫理的なジレンマを生む状況について、自らの考察をまとめ、レポートを作成する。またSGDにて、多様な考え方があることを学ぶ。	動画コンテンツを利用する。
B : 意見の表現・交換	○		
C : 応用志向			
D : 知識の活用・創造			

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修	倫理的な課題を含む社会の出来事に常に関心を持つ (15h)
事後学修	関心を持った事例について、授業で学習した知識、考え方を踏まえて考察する (15h)

【教科書】 資料を配布する

【参考書】 看護倫理 改訂第3版/小西恵美子編集 南江堂 2021年

【成績評価方法及び評価の割合】

評価方法	割合	目標1	目標2	目標3
試験	90%	○	○	○
レポート	10%		○	○

【注意事項】

【備考】

担当教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験	附属病院の医師	
実務経験をいかした教育内容	医療現場で起こる倫理的ジレンマを講義の題材とする。	
授業形態	対面、一部 Zoom を併用する可能性あり	